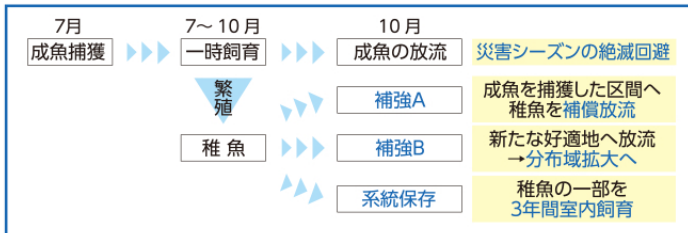


ネコギギの「生息域外保全事業」

鈴鹿川水系のネコギギに絶滅の恐れがあることから、2017年7月亀山市と鈴鹿享栄学園との間で「国指定天然記念物ネコギギ生息域外保全事業に係る飼育協定」が結ばれ、亀山市ネコギギ保護指導委員会の指導のもと保護活動がはじまりました。

ネコギギは国の天然記念物に指定されているので、無許可で捕獲・飼育することは文化財保護法により禁止されています。この事業では亀山市が文化庁に申請して許可を得たうえで捕獲・飼育が行われています。



台風が多い7月から10月に一部のネコギギ成魚を捕獲、一時飼育して野生絶滅を回避すること、室内での繁殖で得られた稚魚をもとの生息地、または生息地拡大のために生息好適地に放流し、鈴鹿川全体の保全を図ることを目指します。

7月、鈴鹿川水系から親魚として飼育する個体を捕獲し、飼育をはじめます。産卵を迎えるメスと、オスのタイミングを見極めて、ペアリング（雄雌の組み合わせ）を行います。けんかしたり攻撃したりとうまくいかないことも多く、自然に配偶行動が始まる組み合わせを探るのは難しいことです。個体数を増やすため、さまざまなパターンでペアリングを試して、配偶行動が見られるか観察しました。そして無事に生まれた卵は別の水槽に隔離して孵化するのを待ちます。



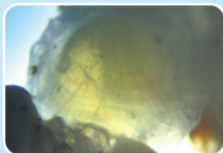
7月 成魚捕獲と繁殖・産卵・孵化

7月、鈴鹿川水系から親魚として飼育する個体を捕獲し、飼育をはじめます。



▲産卵前のネコギギの雌。

▶孵化率は非常に低く、この段階で生き残る数は少なくなっています。卵の直径は約1.5mmほどで、産卵後3日くらいで孵化します。



ハイミー
ベンガ 将一満さん

ネコギギの好む生息環境をつくるために植木鉢に穴をあけドーム状にした人工の巣をいれ、夏の間は冷房をかけて川の水温に近づけ、自然界での環境を再現しています。また、ネコギギは岩陰などの暗いところに住んでいるので水槽を黒い板で覆っています。

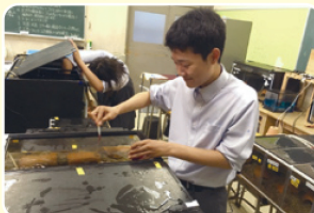


「ネコギギ」(ナマズ目ギギ科)

成魚の体長は雄で約10cm。4対のひげがあって、体は茶色で黄色がかった模様があります。丸い頭に、大きくてかわいらしい眼をしています。

ネコギギの毎日の世話

▼エサやり



▼水槽の掃除



部員のみなさんは学校が休みの日も交代でネコギギの世話をしています。自然界では水生昆虫を食べています。エサとします。稚魚にはアルテミアというプランクトンを与えています。ネコギギはきれいな好き魚です。餌や糞が残っていると水がすぐ汚れるため水槽内は毎日掃除する必要があります。ネコギギの命をつなぐため自然科学部のみなさんは毎日、一生懸命に飼育しています。

豊かな鈴鹿川に するために

自然科学部では、顧問の先生方の熱心な指導もあり、先輩から後輩へと長い期間、鈴鹿川のネコギギをはじめとした生き物の調査・研究が受け継がれてきました。その活動は保護増殖や普及啓発と多岐にわたっていて、行政や研究機関などと連携をはかり、地域においても保全活動の輪が広がっています。このように継続的に取り組む高校生のパワーに、今後も大きな期待が寄せられます。

清流の象徴とも言われるネコギギは、伊勢湾・三河湾に注ぎこむ三重・愛知・岐阜の河川にのみ生息する日本固有の淡水魚です。ネコギギの生息場所は、昼間、身を隠すための巨礫等がある、流れが穏やかな淵や平瀬に限られています。環境の変化に弱いネコギギのために川の自然環境を保全することは、川にすむ他の生き物の生息地を守り、人間にとっても豊かな自然を守ることにあります。

鈴鹿川は、川の水を田に引いたり、地下水を水道水として使ったり、魚釣りや川遊びの場にしたりして、多くの人々が利用している川です。ネコギギが生息できる鈴鹿川の清流を守るということは、私たち人間が利用する川を守るということにもつながります。そして、きれいで豊かな水の鈴鹿川を後世に残すためには、水源の森林も含めた流域全体で取り組んでいく必要があります。